



ずくぼんじょ



くるみえん

発行第262回

広報委員会 小金原保育の会 幼児教室

「ずくぼんじょ」はくるみえんのホームページ内の「会員ページ」でカラーでご覧になれます。パスワードは「hoikunokai」です。

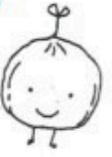
日々の関わりを見てみると、保育者の経験と判断力が、子どもたちの毎日を支えていただいているのだと感じます。保育主任の斎藤先生は、市長懇談で自分たちが思い描く理想の保育をそのまま形にできる環境で、子ども一人ひとりと向き合っているとおっしゃっていました。たとえば、子どもが自分で遊びを考え、友だちと相談してルールを決める場面。一般の保育では「先生の指示」に沿うことが優先されることもありますが、くるみえんでは子ども自身が考えるプロセスを尊重します。保育者はそのプロセスを見守り、

「やってみよう！」を育む

「やってみよう！」という思いを大切に、時間や活動内容も柔軟に対応しています。固定されたカリキュラムに沿うのではなく、子どもの興味や成長段階に合わせて活動を工夫できるのが、くるみえんならではの良さだと思っています。

必要ときだけサポートします。うまくいかなくても、次にどうしたらいいかを一緒に考える経験ができます。

子どもが真ん中。くるみえんの保育



「子どもを真ん中に」という理念が守られており、外部の制度や効率重視の流れに左右されず、子ども一人ひとりの成長を大切にされた保育が続けられています。

くるみえんを支える 運営のしくみ

くるみえんには園長がいません。園の方針や運営に関する大きな決定は、保育者全員、専従職員、顧問の根本先生と、保護者代表による「運営委員会」で話し合い、決まります。

「子どもを真ん中に」という理念が守られており、外部の制度や効率重視の流れに左右されず、子ども一人ひとりの成長を大切にされた保育が続けられています。

「子どもを真ん中に」という理念が守られており、外部の制度や効率重視の流れに左右されず、子ども一人ひとりの成長を大切にされた保育が続けられています。

運営委員会で議題が決定される前は、「クラス会」や「委員会」などで、保護者一人一人の意見や考えを聞きます。クラス会で出た意見はクラス委員を通して運営委員会に伝えられ、くるみえん全体で方向性が話し合われます。

職員と保護者がともにくるみえんを支えることで、保育者が子ども一人ひとりにしっかり向き合える環境が保たれています。

保護者は係や委員会活動を通して、行事の準備などで保育や運営を支えています。

協力が生み出す 安心と保育の質

保育者は日々の保育に向き合いながら運営にも関わり、保育内容や環境づくり、子どもたち一人ひとりの細やかなエピソードなどを常に情報共有し、意見を出し合っています。

こうした自主運営の仕組みがあることで、くるみえんならではの運営の進め方を話し合うことができます。



広報委員として1年間くるみえんを辿り歩いてきて、感じたことをまとめました！
P.N まれーこま



自由とは、ルールがあるからこそ生まれるもの。子どもたちは、遊びの中でそのことを日々学んでいるように感じます。

「自分たちの思いを伝えるにはどうしたらいいか」
「どうしたらみんな楽しんでるか」
「順番を待つってどういうことか」
と考える場面に出会います。

子どもたちはその中で、「自分の思いを伝えるにはどうしたらいいか」

「自由って、なんでもしていいんだよ。」

「自由って、なんでもしていいんだよ。」



- 保護者も保育者も同じテーブルで話し合える
- くるみえんの状況や子どもの様子をすぐに共有できる
- 保護者も園の運営に関わる経験ができる
- 保護者の声が届きやすい



- 制度的な支援(補助金など)が少ない為、園の努力や工夫で補う必要がある
- 決定に時間がかかる(運営委員会にかかるまでの話し合いが多い)
- 意見の偏りがしやすい(発言する人としみへの差がある)
- 運営に関わる時間をとれず、負担を感じる人もいる

強み



ナイス! バランス



弱み

どちらも「子どもを真ん中に」という理念から生まれているのです。時間をかけて対話し、理解し合ってから進む。その姿勢があるからこそ、子どもたちも「自分の考えを大切にできる力」を育んで行けるのだと思います。時には、見直しや工夫が必要になることもありまが、そうした歩みのひとつひとつが、くるみえんをよりよい場所にしていくのでしょ。



自主運営幼児教室の保護者交流会の感想

自主運営幼児教室の保護者交流会に参加させていただき、心より感謝申し上げます。何の情報もなく参加しましたが、ひばりヶ丘のたんばぼ幼児教室の保護者の方々とお話する中で、くるみえんと共通の理念を持つ仲間がいることに感動しました。

たんばぼ幼児教室のパンフレットにあった「あなたが幼児教室に求めているのは何ですか?」という問いかけと、「幼児期に『学びとる力』を大切にする」という答えは、時代や地域を超えても変わらない、子どもたちの本質的な成長を願う親の思いそのものでした。

現代では、自主運営幼児教室は新規園児獲得や運営継続という課題に直面し、親の負担の多さが敬遠されがちです。しかし、交流会を通して、親が深く保育に関わることは、最高の教育環境を提供するメリットだと再認識しました。親が保育に関わることで、子どもの個性に応じたきめ細やかな保育や、家庭と園の一貫した教育が実現します。また、行事だけでなく、普段の活動で子どもの成長を間近で見守れる喜びや、親同士の強い共同体意識が生まれることも大きなメリットです。

この交流会は、私たちの保育理念の確かさを再確認させてくれました。同じ志を持つ仲間がいることの心強さを胸に、時代に合わせた柔軟な工夫を凝らしながら、この素晴らしい保育の形を未来へ繋いでいきたいと強く思いました。

ももぐみ母

今号1,2面の特集記事はくるみえんの年長、年少組に在室する子のお母さん方が、熱い思いを綴ってくださったものであ。

創立50周年という節目にあたる今年度、様々な行事ごとにOBさんたちの力添えをいただいたり、創設時からお世話になっている方々のお話をうかがう機会に恵まれた年だった...ということもありますが、若いお母さん方が、ここまでくるみえんを好きでいてくれて、理念を理解、共感し「皆に伝えていこう」という思いを持っていることに、古希の私(67歳)は感動を覚えます。くるみえんの今後は「安泰だ!」と安心して下さる若い力を応援していこうと思います。

合同クラス会 行いました!!

・どうしてる？子どもとデジタル・

「見せたくないけど助けられる時もある」「親が疲れているほど、視聴時間が増える」といふ声もよく聞かれました。一方で「テレビが苦手な家が多い」といふ声もありました。「ルールを見える化している」「親が良いと思うものだけを見せている」といふ声もあり、家庭ごとの方針は様々でした。

どうしてる？自分とデジタル

「調べもののつくりが脱線」「SNSで落ちこんでいる」「スマホを忘れてソワソワ」などデジタルあるあるが次々！別の視点では「あえて自分の楽しみとして使う」といふ自分時間のリフレッシュとして使っているとの声も多くなりました。また「パパがスマホばかりしているの子どもとの時間より、優先しているのが気になる…」との声も。

【デジタル以外の楽しみ方】

「料理」「生き物のお世話」「工作」「家事に巻き込む」「週1で図書館へ行く」などデジタル以外の楽しみをみなで共有しました。デジタル以外の楽しみもついている家庭も多く、とても勉強になりました。

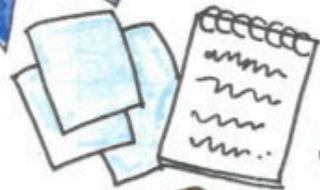
今回の企画を準備する中で、幼児期のメディアの利用についてクラス委員会でも勉強をしました。メディアの長時間利用は脳の発達や情緒の安定に影響する可能性があるといわれているそうです。でもこれは「怖がるため」ではなくて親が「どんなふうに使えば良いか」も考える為を知っておきたい情報です。使用時間なども意識したり、親子でルールを作ったり、メディア以外の選択肢を選んでみたり。みんな考えながら会になっていたうらやましいです。どの意見も共感が広がり、クラスの枠を超えて盛り上がり、今回の会、広報としても書き足りないくらい濃い時間となりました。

おやこDE地域交流 まつり2023年に人形劇 サークルが参加しました!

おまつりへの参加は今年で3年目。会場には親子連れや地域の方々がたくさん集まり、にぎやかな雰囲気のなか、くみえんの出演がスタートしました。

今回はくみえんでもおなじみの作品、『02のきのこのおぼえ』、『きのこのおぼえ』そして9月のお誕生会でも上演した『くみえん合戦』も披露しました。人形たちが舞台上に現れると、こどもたちから「あっ!」「ネズミー!」と歓声があがり、会場がぱっと明るくなりました。途中の掛け合い

では、客席から元気な声も返ってきたり、手を振ってくださったり、おまつりならではのあたたかみを感じられる場面も。終演後には「おあいかった!」「またみたい!」と笑顔で声をかけていただき、メンバーもほっとした表情に、地域の方々とつながりを感じられるうれしい時間となりました。少し緊張もありましたが、くみえん外での発表は貴重な経験に、これからも人形劇を通して地域の方々と楽しい時間を共有していけたらと思います。



デジタルに伴い私たちにとってメディアは切っても切れない存在になりました。どうやって付き合っていくのか今日は皆で考えてみました。家庭環境によって状況が異なるので今回は自分たちで話し合ってみました。クラス委員長 中山さん



